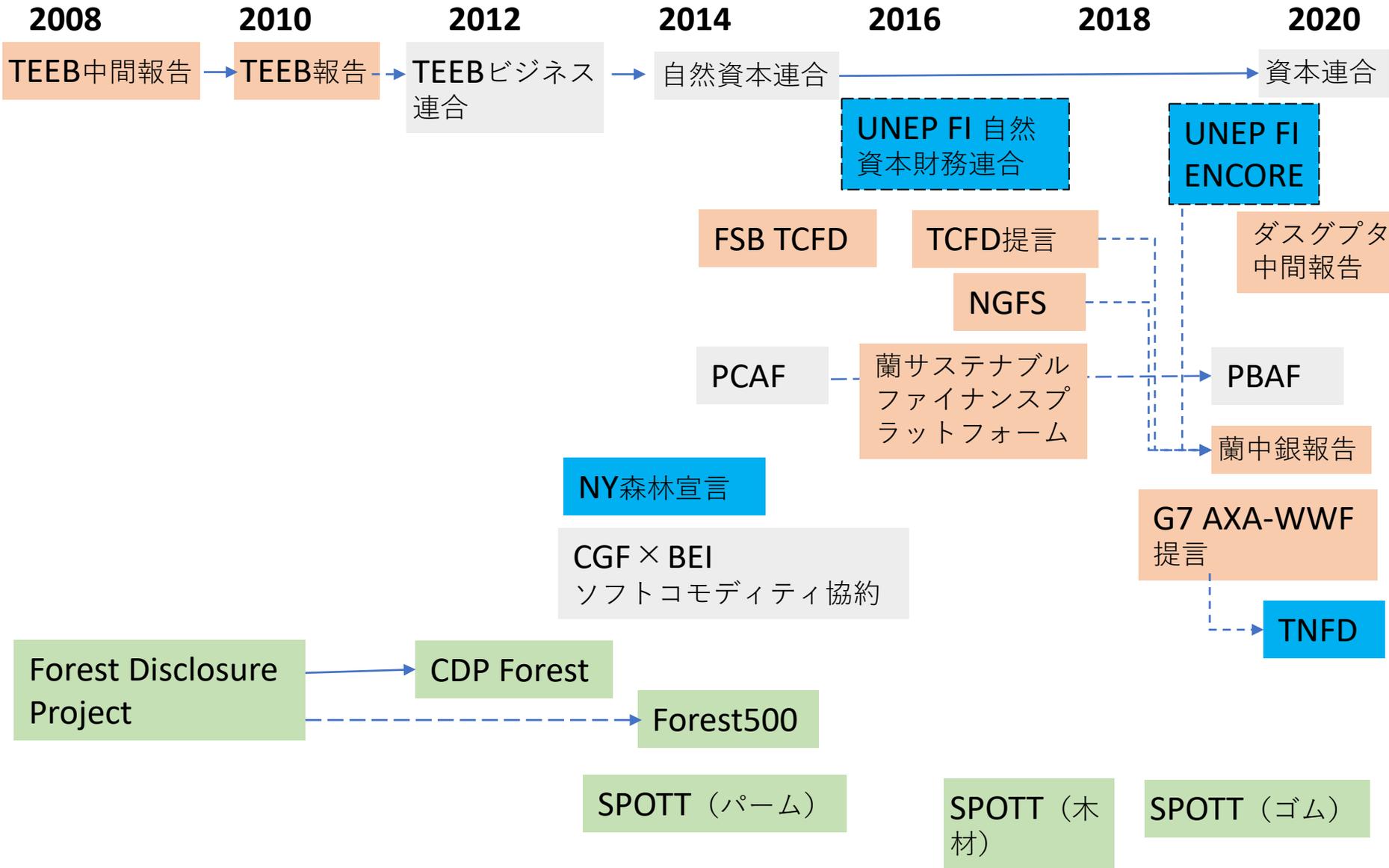


金融から見た 生物多様性

一般社団法人SusCon
代表理事 栗野美佳子



オランダにおける金融と生物多様性

サステナブルファイナンスプラットフォーム  Platform voor
Duurzame
Financiering

- 官民連携機構（座長 オランダ銀行）

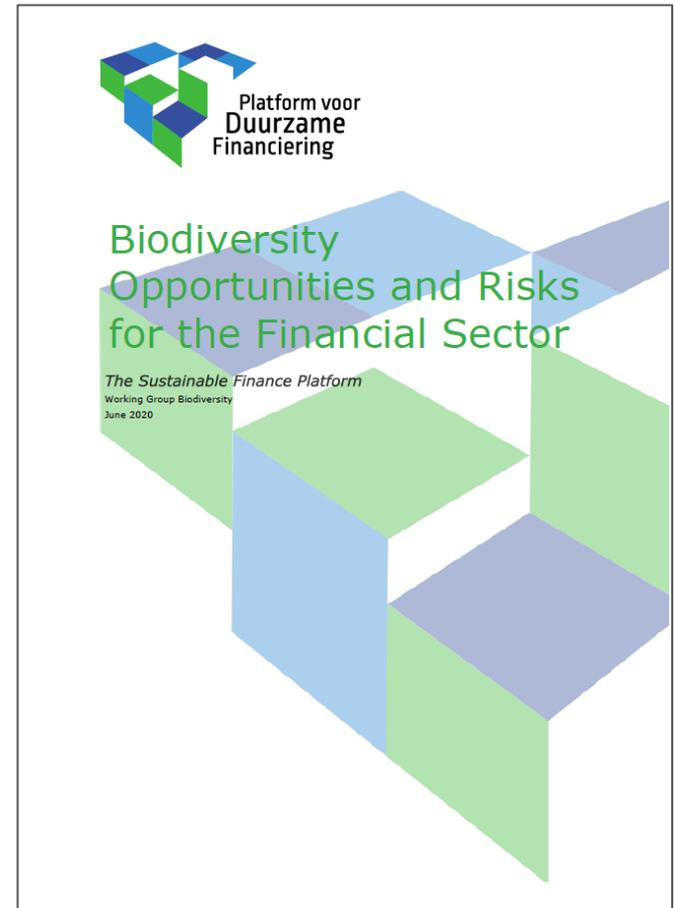
銀行協会・保険協会・年金基金連合・ファンド運用
機関協会・金融市場庁・財務省・経済気候省・サス
テナブルファイナンスラボ（ウトレヒト大）

- 8つの作業部会

気候リスク・サステナビリティコミュニケーション・サステナビリティ教育・SDGインパクト評価・PCAF・持続可能な不動産・**生物多様性**・カーボンプライシング

オランダにおける金融と生物多様性

- 生物多様性作業部会（座長 水道整備金融公庫）
Actiam（運用機関）・APG（年金基金）・ASN銀行・a.s.r（保険会社）・エラスムス大・FMO（開発銀行）・ラボバンク・ロベコ（運用機関）・農業自然食品安全省
- 「金融セクターにとっての生物多様性の機会とリスク」2020年6月





自然資本の財務リスク

A 物理リスク

信用・投資リスク：生産活動停止による債務不履行、投資パフォーマンスの悪化
事例：フィリピンの水力ダム発電が周囲の森林破壊に起因する土砂堆積で操業が断続的

B システミックリスク

- ・市場リスク：生産能力毀損による世界市場への余波
事例：ハードドライブの一大生産地であるタイの洪水で、ハードドライブ価格が最大4割上昇
- ・訴訟リスク
事例：BPとエクソンの油流出事故

C 移行リスク

規制リスク：生物多様性関連規制強化
事例：オランダ国内の窒素規制が緩すぎると国策会議から規制強化命令

D 評判リスク

評判リスク
事例：グリーンピースのキャンペーンにより大手林業企業の売上5%が一日で蒸発



金融実務での生物多様性リスク

銀行

融資期間：生物多様性損失の全容が不明なので、長期の融資ほどリスクが高くなる

ノンリコース：通常のリスクのみならず生態系への影響が大きい場合は生物多様性も考慮が必要

運用機関・年金基金

生態系への影響や依存が大きい企業への投資：生態系悪化と生物多様性損失が企業価値を左右

ファンド期間：長期のものの方がリスクに陥りやすい

保険会社

環境責任（liability）：環境汚染事故等の損害賠償支払い増加

オランダにおける金融と生物多様性

オランダ中銀と環境アセス庁による
共同報告

「生物多様性に借金～オランダ金融
セクターにとっての生物多様性リス
クを探る」

2020年6月

- 金融機関はリスクを特定せよ
- 生物多様性リスクとインパクト指
標を備えた国際枠組みを作れ
- TCFDのような開示枠組みを作れ
- 金融機関も開示努力せよ
- 規制監督官庁も金融機関に報告さ
せよ





リスク定義

物理リスク

- 衰退する生態系サービスへの依存から生じる。
- 事業の継続性危機や事業価値減少、利益創出能力や借金返済能力を毀損する。
- 金融機関にとっては市場リスクと信用リスクに繋がる。

移行・評判リスク

- 生態系サービスや生物多様性に与える影響から生じる。
- 貸し出し先のデフォルトや投資の減損の蓋然性が高まる可能性有。
- 責任訴訟や評判の下落が運転コスト増加要因となるリスクもある。
- 金融機関にとっては短期の流動性リスクに繋がりがかねない。



現状分析

物理リスク

- ENCOREを使用。
- オランダの金融機関の投資の内**36%**に相当する**5100億€**が生態系システムに「大きく」もしくは「非常に大きく」依存。
- 動物による花粉媒介の消滅も金融機関にとっての総額**280億€**の物理リスク資産を意味する。

移行リスク

- 生物多様性フットプリントを移行リスクの近似値と位置づけ、オランダの金融機関が投資している企業約**8000社**の生物多様性フットプリントを計算
- フットプリントは**58000平方キロ**（オランダの国土の**1.7倍**）の原生林消失に相当。
- 保護地域で事業展開している企業もリスク財産として計算、少なくとも総額**150億€**のリスク資産をオランダの金融界は抱えている。

評判リスク

- 環境争議に関わっている企業への投資や貸付数を指標に設定
- **2019年末時点**で**414件**あり、オランダの金融機関からは総額**960億€**が該当企業に流入
- 更に、最新のCDPフォレストの未回答企業と情報非公開企業で、**970億€**のリスク資産。

オランダにおける金融と生物多様性

Partnership Biodiversity Accounting Financials (PBAF)

- ASN 銀行・ACTIAM・FMO・ラボバンク・トリオドス銀行・Triple Jump (インパクト投資専門)
- 生物多様性の保全と持続的利用への貢献可能性と投資インパクトの測定

ASN銀行生物多様性目標

「2030年までに全投融資を通じ生物多様性にネットポジティブ効果をもたらす」

- 投融資の生態系ダメージ削減
- 自然保護や持続可能なエネルギー、サーキュラーエコノミーへの投資

情報開示への動き

During 2019 > 2020, Global Canopy, WWF, UNDP and UNEP created an informal Partnership to build on growing calls for nature-related financial disclosure.



April 2019: NGFS Comprehensive report

The report recommends that policymakers and supervisors consider further actions to foster a broader adoption of the TCFD recommendations and development of an **internationally consistent environmental disclosure framework**.



May 2019: G7 Environment in France

AXA and WWF's Into the Wild report calls for a **Task Force on Nature Impacts & Disclosures**, to identify and analyze business activities that have a material impact on biodiversity as well as activities that are dependent on ecosystem services, to support biodiversity protection.



May / July 2019: G7 Environment in France; UK Green Finance Strategy

The **OECD**, calls for the creation of a **multi-stakeholder group** to integrate biodiversity in investment decisions. **UK Government** includes **nature-related financial risk** Working Group into its Green Finance Strategy.



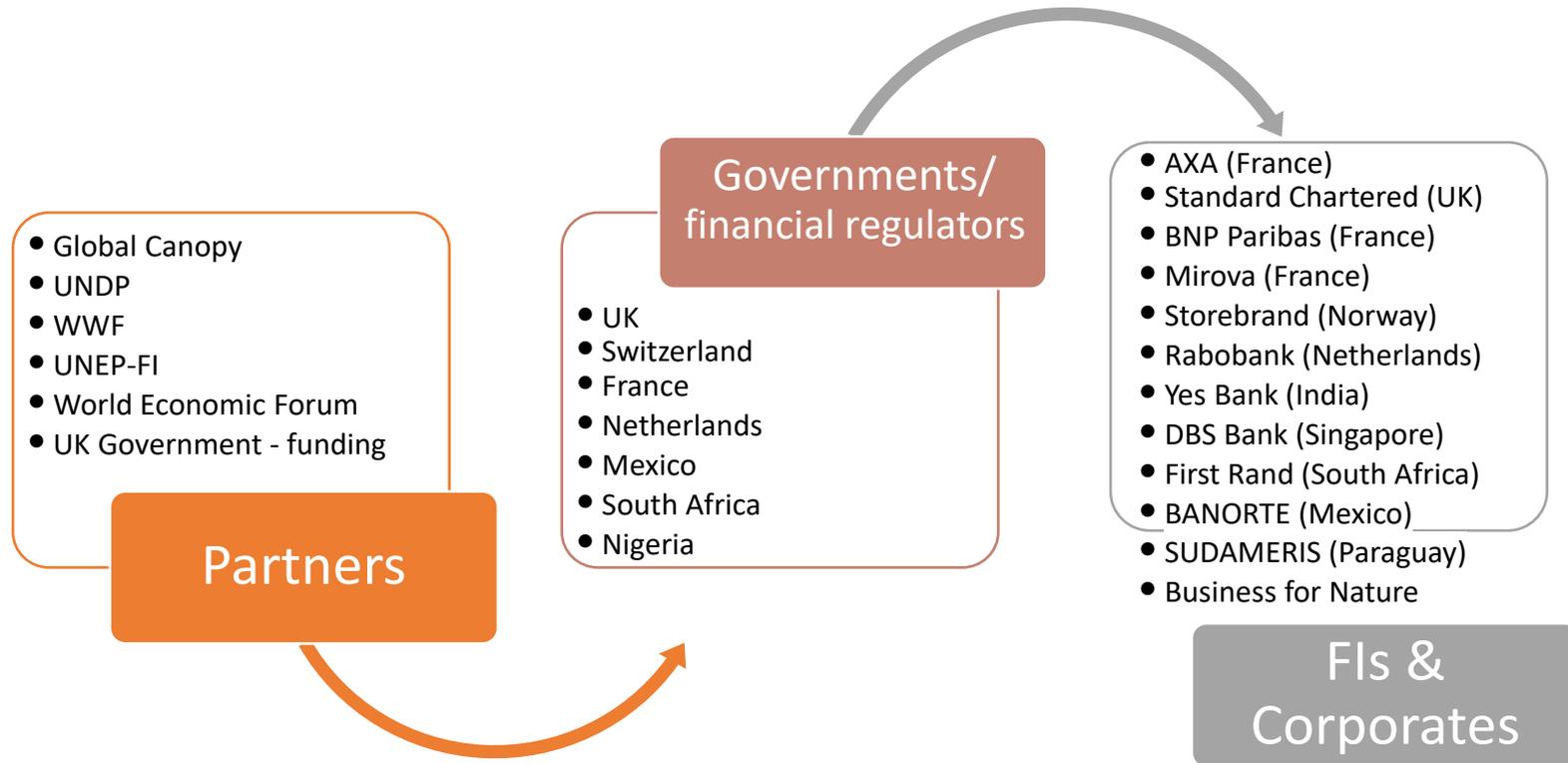
Jan 2020: French asset managers raise awareness on nature-related financial risks AXA Investment Managers, BNP Paribas Asset Management, Sycomore Asset Management and Mirova issued a **call for interest to develop pioneering tool for measuring investment impact on biodiversity**.



Jan 2020: CSDB consultation

UK Climate Disclosure Standards Board (CDSB) has launched a public consultation & call for evidence: Advancing Nature-related Financial Disclosures. The aim of the consultation is to **advance the disclosure of nature-related financial information** by organisations globally.

新構想 TNFD



- 2020 - IWG Agrees scope of TNFD workplan
- 2021 - Launch US\$10 m Programme at CBD COP 15 in China
- 2021 - Phase 2 – Research & Develop “Reporting Framework for Nature”
- 2022 - Phase 3 – Consultation and Dissemination (Finance & Civil Society)
- 2023 - Phase 4 - Voluntary Uptake by Financial Sector Worldwide
- 2025? – Uptake increasingly demanded by some Governments?

日本の課題

- ESG金融への理解
- ESG金融の手法
- 生物多様性への理解
 - 「マテリアルではない」
- 地域事情への精通
- データの欠落